

「名作文庫」通信



特集「フランス文学」

2014年

冬号

## 新しく入った本

「名作文庫」に新しく入った本をご紹介します。一部、保存庫に所蔵されているものがあります。1階カウンターにてご請求ください。



### 復活(全2冊)

【著】トルストイ 【訳】藤沼 貴

【刊】岩波文庫 【資料番号】1011990478

殺人事件の陪審員として法廷に出たネフリュードフは、容疑者の娼婦が、かつて自分が誘惑して捨て去った、叔母の家の小間使いカチューシャであることに気づき、良心の呵責にさいなまれる。トルストイ後期最大の作品。



### 明暗

【著】夏目 漱石 【刊】集英社文庫

【資料番号】1012092944

何不自由ない新婚生活を送っているかに見える津田とお延。実は手元不如意の上、津田は持病に悩まされ、津田のかつての恋人の存在が夫婦の生活に影を落とし始めていた…。



### 大江健三郎自選短篇

【著】大江健三郎 【刊】岩波文庫

【資料番号】1011990262

「奇妙な仕事」「飼育」「セヴンティーン」「雨の木を聴く女たち」など、デビュー作から中期の連作を経て後期まで、全23篇を収録した大江健三郎の自選短篇集。全収録作品に加筆修訂がほどこされた最終定本。

## フランス文学

作家の文字で作られるこの芸術作品は私たちに最もスリリングで豊かな経験を与えてくれる。ますます寒くなるこの季節。名作文庫にあるフランス文学に触れることで読書熱を高めてみては。



### 異邦人

【著】カミュ 【訳】窪田 啓作

【刊】新潮文庫 【資料番号】1012095608

母の死の翌日海水浴に行き、女と関係を結び、映画を見て笑いころげ、人を殺害し、動機について「太陽のせい」と答える…。通常の論理的な一貫性が失われている男を主人公に、不条理の認識を極度に追求したカミュの代表作。

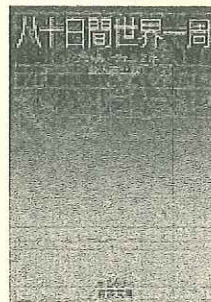


### 狭き門

【著】ジッド 【訳】山内 義雄

【刊】新潮文庫 【資料番号】1010101713

母親の不倫等の不幸な環境のために天上の愛を求めアリスは、ジェロームを愛しながらも、地上的な愛を拒み、死んでしまう。残された日記には、彼を思う気持と“狭き門”を通して神へ進む戦いと苦悩が記されていた…。



### 八十日間世界一周

【著】ジュール・ヴェルヌ 【訳】鈴木 啓二

【刊】岩波文庫 【資料番号】1010936555

1872年ロンドン。紳士フィリアス・フォッグは、クラブの仲間と賭けをし、80日間で世界を一周する旅に出ることに。SFの父、ジュール・ヴェルヌの冒険小説が登場。

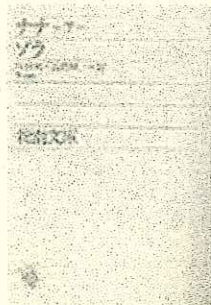




## 美女と野獣

【著】ポーモン夫人 【訳】鈴木 豊  
【刊】角川文庫 【資料番号】1010114559

一輪のバラを望んだばかりに野獣の館にとらわれの身となった美女は、毎夜くりかえされる野獣のプロポーズを拒みつづけました。18世紀フランスの美しい古典。



## ナナ(全2冊)

【著】エミール・ゾラ 【共訳】川口 篤、古賀 照一  
【刊】新潮文庫 【資料番号】1010104386

女優にして高級娼婦ナナ。あらゆる階層の男たちが素通りする肉体の花園。「誘惑、破滅、狂気」をはらみ、自らも疫病の奈落へと朽ち果てるナナの姿を描く。



## 愛の妖精 プチット・ファデット

【著】ジュール・サンド 【訳】宮崎 嶺雄  
【刊】岩波文庫 【資料番号】1011937404

豊かな農家バルボーさんの家に双子の男子が生まれた。大きくなって近くの農家に働きに出た弟ランドリ一は、村の若者や娘たちの仲間に入り、やがて嫌われ者の娘ファデットと恋に落ちる。ジュール・サンドの代表作。



## 人間ざらい

【著】モリエール 【訳】内藤 濯  
【刊】新潮文庫 【資料番号】1010105839

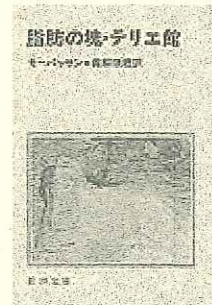
世間知らずの純真な青年貴族、アルセルトは虚偽に満ちた社交界に激しい憤りさえいだいているが、皮肉にも彼は社交界の悪風に染まったコケットな未亡人、セリメーヌに恋してしまい…。



## 夜間飛行

【著】サン=テグジュペリ 【訳】二木 麻里  
【刊】光文社古典新訳文庫 【資料番号】1011715651

郵便飛行事業の草創期、夜間の運航は常に危険をはらんだ命がけの任務であった。厳格な社長のリヴィエールとパイロットのファビアン。夜に戦いを挑み続ける男たちの一夜を追った、苦悩と希望の物語。



## 脂肪の塊・テリエ館

【著】キ・ド・モーパッサン 【訳】青柳 瑞穂  
【刊】新潮文庫 【資料番号】1010101788

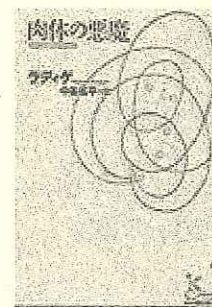
人はそこまで卑劣になれるのか…。ブルジョア批判、女性の哀れへの共感、人間の好色さを描いた「脂肪の塊」と、純粋で陽気な娼婦たちと彼らを巡る人間を活写した「テリエ館」を収録。



## 赤と黒(全2冊)

【著】スタンダール 【訳】野崎 敏  
【刊】光文社古典新訳文庫 【資料番号】1011534219

製材小屋のせがれとして生れ、父や兄から絶えず虐待されて暗い日々を送るジュリヤン・ソレルは、僧侶になって出世しようという野心を抱く。町長レーナル家の家庭教師になったジュリヤンは純真な夫人を誘惑してしまう…。



## 肉体の悪魔

【著】ラディゲ 【訳】中条 省平  
【刊】光文社古典新訳文庫 【資料番号】1011959812

ふたりの幸せは、砂の城だった。ほくは、満ち潮ができるだけ遅くやって来るように願っていた…。コクトーに見出され、コクトーに愛された早熟の天才作家ラディゲが描く16歳の少年と美しき人妻との恋愛悲劇。



## あの人、あの一言。

名作に登場する忘れがたい人物やセリフ、そして文章をピックアップ。  
心の糧に、座右の銘に、雑談の種に。

幸福な家庭はどれも似たものだが、不幸な家庭はいずれもそれぞれに不幸なものである。

トルストイ 「アンナ・カレニナ」  
訳 岩波文庫

19世紀末のロシア。政府高官カレニンの妻アンナは、社交界の花として人々から注目されていた。しかし華やかな生活の裏で彼女は、夫との愛なき結婚に空虚なものを抱いていた。そんな中アンナは、兄夫婦のいさかきを仲裁するためモスクワにやってきた。そこで若き貴族将校ヴロンスキーと運命的な出会いをする。兄夫婦を仲直りさせた後、再会した二人は互いに惹かれあい、いつしか激しい恋に落ちていく……  
結婚とは？夫婦とは？愛とは？生活とは？冒頭から始まるこの文章から、私たちに様々な問いを投げかけていく。

「名作文庫」で読めるのは

アンナ・カレニナ(全3冊) 岩波文庫

資料番号 (上)1011940804 (中)1011940846 (下)1011940838

アンナ・カレニナ(全4冊) 光文社古典新訳文庫

資料番号 (1)1011634456 (2)1011634464 (3)1011640362  
(4)1011647920

## トルストイ

ロシアの作家。ドストエフスキーと並んで19世紀ロシア文学を代表する巨匠である。1828年、彼はトゥーラの町にほど近いヤースナヤ・ポリャーナに、ニコライ・トルストイ伯爵の四男として生れた。16歳の時、カザン大学東洋語学科へ入学したがそれも続かず、二年足らずで大学を中退した。1852年、兄ニコライと共にカフカースへおもむき、砲兵旅団の士官候補生として参加するかたわら、処女作「幼年時代」を書きあげる。1856年、トルストイはクリミア戦争が終わり軍務を退く。そしてヤースナヤ・ポリャーナへ帰還後、農事に熱中し農民の子弟の教育にも努めた。この頃の作品には、「三つの死」「家庭の幸福」がある。1862年、宮廷医ベルスの娘、18歳のソフィヤ・アンドレーヴナと結婚、トルストイは34歳であった。結婚を契機に彼は文筆活動に専念するようになり、最初の長編「戦争と平和」が完成する。その後「アンナ・カレニナ」の執筆に着手、五年の歳月をかけて自己の芸術的完成の頂点を示した。しかしこの頃から彼は、内面生活の矛盾から思想的動揺が激しくなり、宗教に救いを見出すようになる。この頃の作品には「懺悔」などの宗教論文、「イワンのばか」などの民話がある。1889年からは最後の長編「復活」の執筆に没頭、その衰えを知らぬ作家的情熱を証明した。晩年は、その輝かしい世界的名声と業績にもかかわらず、求道者としての自己矛盾とソフィヤ夫人との家庭的葛藤に悩まされた。そして夫人に別れの手紙に残して放浪の旅にのぼる。その後まもなく発病し、1910年11月、リャザン・ウラル鉄道の小駅アスターポヴォの駅長官舎で82年にわたる波瀾にみちた生涯を終えた。「真理を・・私は熱愛する・・なぜあの人たちは・・」これが文豪トルストイの最後の言葉であった。

参考文献「新潮世界文学辞典 増補改訂」

アンナ・カレニナ(全3冊)

【著】トルストイ  
1828年～1910年

【刊】新潮文庫

【資料番号】(上)1011971825

(中)1011947007

(下)1011947015





## いまこそ教養、「名作文庫」。

下井草図書館だけにある特別な本棚、「名作文庫」。

一度は読んでおきたい古今東西の名著名作を  
ハンディなサイズの文庫版・新書版で集めた本棚です。  
同じ作者の同じ作品がいろいろな本でそろっているので、

1冊ごとに違う解説、違う注釈、違う翻訳に  
触れることができます。

題名だけしか聞いたことなかったあの作品、  
いまこそ手にとってご覧になりませんか？

### よりディープに楽しみたいあなたには 『名作文庫 蔵書紹介』『いまこそ名作！読書会』

実は「名作文庫」の一部は書庫にしまわれています。

でも『名作文庫 蔵書紹介』を見れば大丈夫！

書庫の本のこともバッチリ載っています。

読みおわって熱い感動を誰かに語りたい…と思ったら、  
『いまこそ名作！読書会』にその思いを投稿しましょう！  
投稿レビューは常時公開！同じ思いの誰かがいるかも。

季刊「名作文庫」通信

3・6・9・12月発行

杉並区立下井草図書館